

式 辞

本日、ここに入学式を迎えられました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。桜が満開の今日、長崎総合科学大学に皆さんを迎えることができ、長崎総合科学大学の教職員一同、心から歓迎いたします。

また、今日まで皆さん方を物心両面から支え、励まし、見守り続けてこられた保護者の皆様、ご家族の皆様、学校関係者の皆様のお喜びはいかばかりかと思えます。心からお祝い申し上げます。続いて、大学院へ進学された皆さん、入学おめでとうございます。今や日本の産業の中心は皆さんたち大学院生です。勉学に励み、そして一緒に研究を愉しみましょう。

別科日本語研修課程の留学生の皆さん、日本語をしっかりと学び、教養に裏打ちされた技術を学ぶために、よい環境の中で大学を目指して下さい。

さて、本学は、附属高校から別科日本語研修課程、学部、大学院修士課程と博士課程を備えた八十二年の歴史を誇る理工系の大学です。

附属高校から入学された方は大学までで七年間、大学院修士課程まで進学するとしたら九年間、博士課程まで行くとしたら十二年間に渡って勉学に励める環境を整えています。また、鎖国制度の江戸時代にも唯一の世界に向けて開かれた街であった長崎の地にある大学らしく、今も海外に向けて大きく扉を開いています。

本学には、教育の根幹をなす「建学の精神」と「大学の理念」が掲げられています。「建学の精神」は、「自律自彊（じりつじきょう）」、「実学実践（じつがく じっせん）」、「創意創新（そうい そうしん）」、「宇内和親（うだい わしん）」の4つの四字成語にまとめられています。「自律自彊」とは、自ら努力し、励んで、自分自身を高め、自己を確立すること、「実学実践」とは、地に足をつけ、社会の役に立つ技術を開発・実行できる実践的な人材、「創意創新」とは、常に先進的で独創的な技術を開発して、社会の発展に寄与する新しいものを作り出す開発力を有する人材、

「宇内和親」とは、常に物事を世界的視野で考え、人類の平和を技術への愛を通して育む人材になることです。

「大学の理念」は、「人類愛の存するところ、技術への愛もまた存する」と掲げられています。これは、古代ギリシャの先哲ヒポクラテスの言葉です。このような建学の精神と理念に基づいて作られたカリキュラムを通じた日々の学びの中で、これらの精神と理念を皆さん一人一人が思い起こすことで、次のステップに向けての素晴らしい力が入ると思います。

本学は、先端科学技術に関する教育・研究の推進を目指す中で、学生一人ひとりの個性や適性に対応した教育を実践し、各々の学びをきめ細かにサポートしていきます。勿論、豊かな人生を形成するためにキャンパスライフを謳歌することも大事であり、サークル活動などもしっかりサポートしています。

本学へ入学される皆さんがそれぞれの「夢」を叶えられるように「力」を得られることを願っています。

ところで、この「力」とはどういう力でしょうか。

教科書を理解して、演習問題が解けることでしょうか。

試験で良い点数を取れることでしょうか。

学生実験の授業で、実験ができ、データ整理ができ、良いレポートを書けることでしょうか。

演習でプログラムを書けることでしょうか。

確かにこれらは大学で各講義の「単位」を取るためには必要なことです。これらができないと卒業できません。

それでは、これらのことができれば、単位が取れば、社会に出て仕事ができるのでしょうか。社会人として役立つ人になれるのでしょうか。

残念ながら、そういう「学力」のみの学びのやり方では社会の仕事との間に大きな断絶が生まれます。

大学の学びは、学習する各講義や実験・演習の内容を理解するだけでなく、それらの講義や実験・演習の関係を自ら整理し、自分の心と真摯に向き合い、自分の目指す方向を探すというところに特徴があります。

得られた教養に裏打ちされた知識を基礎に、どういうものを研究・開発して作りたいのか、どういう方面の仕事がしたいのかを四年間、実質は三年生までの三年間で探さないといけません。

例えば、宇宙衛星を設計したいなら、どういう設計力や動作解析力、作り上げる製造力、運用するためのデータ収集やデータ解析力が必要かを自ら調べないといけません。

革新的なAIプログラムを作ろうとしたなら、どういう科目を取り、どういう数学やアルゴリズム開発、プログラム作成の能力が必要なのかを考え、使い道を誤らないための倫理などの教養も修得する必要があります。

現在、日本はグリーンエネルギーへの大転換、半導体産業の再興、世界に後れを取ったデジタル化とDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、さらにはガソリン車からEVへのシフトといった多くの課題に直面しています。

これらの課題を解決する道を選ぶ人は、どういう知識と能力が必要なのか、どの教授に師事し、どういう仕事を指せば役立てるのかを自ら調べ、考えないといけません。

皆さんがそれぞれの目標を探し、その実現を夢見る中で、どのような設計力、開発力、製造力、実験力あるいは解析力と言った力が必要かを指導教授のサポートの元に調べ、考え、そして社会に出て、仕事に就いても役立てる「力」に皆さん自らが育てあげないといけません。

長崎総合科学大学には、社会的課題に向かって果敢に挑戦する教授陣が多くおられます。海洋エネルギーやバイオマス資源の活用、太陽電池などの再生可能エネルギーのシステム技術、先端半導体技術、AIを始めとした知能情報技術、船舶や自動車、衛星のEV化技術、最新の医療技術といった研究開発などで先導的な役割を果たしておられます。

この恵まれた環境の下、自ら考えることで、皆さんには限りない将来が開かれています。自主的に、勉強、研究、課外活動、ボランティア活動と活発に行動してください。

それが、社会へ連続的に続く道であり、得られる力がそこにあります。

そういう力が最高学府の大学にはあります。

そういう「知力」という力を是非自分で掴んでください。

大学院の皆さんは、国内は元より、海外にも出向き、見聞を広めてください。国際会議にも出席し、世界中から集まった研究者や学生の中に身を置く、新たな自分の能力をかみしめて下さい。世界中の誰も知らない知見を得たり、新たな発見をしたり、皆が驚くものを研究室で作ったりするごく近い将来の自分を想像してみてください。

それを多くの皆さんに感じていただき、大きく羽ばたいていたために大学院授業料のほぼ無料化を全国で唯一実施しています。

さて、大学生活では、いつも順風満帆ではないでしょう。上手く先へ進めないこともあるでしょう。

しかし、「科学技術の世界」では、頑張れば必ずその分先へ進め、先に新しい風景を見ることが出来ます。その過程で仲間や教授と議論し、一緒に何かを作り上げることでも人間性も成長します

技術的な実力と社会・対人関係力、自己制御力を併せ持った「人間力」が手に入ることでしょう。

最後に、皆さんの前途を祝福し、有意義で充実した楽しい大学生活を送られ、素晴らしい「知力」と「人間力」を本学で得られんことを祈念して、式辞といたします。

令和六年四月二日

長崎総合科学大学

学長 黒川 不二雄